

Il y a Y qui + V 構文と X avoir Y qui + V 構文の働き

—<名詞句(Y) + qui + 動詞句>型の表現の分析を通じて—

小川 彩子

(関西学院大学大学院)

「息子が私を待っている」とフランス語でいう場合、次のような言い方が考えられる。

(01) Mon fils m'attend.

(02) Il y a mon fils qui m'attend.

(03) J'ai mon fils qui m'attend. (*Je Reste !*, film de Diane Kurys, 2003)

外国人のフランス語学習者が初級の段階で通常学ぶのは、(01)の<名詞句(Y) + 動詞句>のシンプルな表現であるが、ネイティブは(02)の<Il y a Y qui ...>という構文(以下「Il y a Y qui + V 構文」とする)を頻繁に使用する。また、(03)はある映画の台詞として使われた文であるが、ネイティブはこのような<X avoir Y qui ...>という構文(以下「X avoir Y qui + V 構文」とする)も頻繁に用いる。

(04) Mon fils qui m'attend !

さらに、文脈によっては(04)のような<名詞句(Y) + qui + 動詞句>型の表現も可能である。本発表では、<名詞句(Y) + qui + 動詞句>型の表現の分析を通じ、Il y a Y qui + V 構文および X avoir Y qui + V 構文の働きならびに両構文の表す内容の差異を明らかにすることをめざす。なお、Il y a Y qui + V 構文に関しては、本発表の考察対象は擬似関係節を伴う Il y a Y qui + V 構文とし、いわゆる制限的關係節および同格的關係節を伴う文は考察の対象としない。

考察の順序としては、まず Il y a Y qui + V 構文における Il y a の働きに関する先行研究を紹介する。次に(i) Il y a Y qui + V 構文と Il y a を伴わない<名詞句(Y) + qui + 動詞句>型表現の比較、(ii)<名詞句(Y) + qui + 動詞句>型の実例を題材に、話し手はどのように状況を把握しこの表現を用いているかを考察することにより、Il y a の働きを導き出す。

さて、Benveniste(1966)は動詞 avoir を用いる話し手は対象に影響を受けた主体の状態について主に語っていると説明するが、X avoir Y qui + V 構文に関しても Benveniste(1966)の考え方を応用することができるか、つまり X avoir Y qui + V 構文を使用する話し手は<名詞句(Y) + qui + 動詞句>が表す事態に影響を受けた X について語っているといえるかという疑問を提示する。Il y a Y qui + V 構文を使用した発話例と、その例を X avoir Y qui + V 構文に言い換えた文とを比較しその違いを分析するとともに、上記の疑問を解明していく。さらに、X avoir Y qui + V 構文を使用した発話例と、その例を Il y a Y qui + V 構文に言い換えた文との比較対照を行うことで、両構文のもつ意味を深く考察していく。

なお、本研究では約 60 本のフランス映画を見ることで、考察の対象となっている三つの構文を網羅的に発見しようと努めた。